

省エネルギー運転（エコドライブ）研修の実施

平成17年2月16日に発効した京都議定書に基づく我が国のCO2排出削減目標達成に向けては、運輸部門全体からの排出量抑制について更なる努力を要する状況にあり、その一つの施策として、政府は、省エネ法（「エネルギー使用の合理化等に関する法律」）を改正し、平成18年4月から施行され、運輸分野等の省エネ対策の一層の強化が図られました。

更に、昨年末のバリ協定の締結を踏まえ、より一層の省エネに対する取り組みの推進が予想されております。

このため、公営バス事業においても率先して省エネルギー対策に取り組むとともに、現下の経営状況に鑑み、職員に対してもコスト意識を持たせ、その効率化に対する意識改革を図ることを目的に標記研修を平成18年度から実施し、12回目となる研修を本年も実施しました。

【研修概要】

1. 日 時 平成29年6月8日(木)～9日(金)
2. 場 所 クレフィール湖東交通安全研修所（滋賀県東近江市）
3. 研修日程 （別紙 省エネ運転研修時間割 参照）
4. 参加都市 青森市、東京都、川崎市、横浜市、名古屋市、京都市、高槻市、伊丹市、神戸市、松江市、鹿児島市 計11都市
5. 参加者数 32名
6. 参加者の感想

今回の研修のアンケートでは、いくらか参考になったという人を含め、全員が参考になったと回答。また、この研修の成果を何らかの形で職場で実践したいとほとんどの人が回答されました。

なお、主な感想としては以下のとおりでした。

- (1) 省エネ運転は自分が思っていたものと違って、どうすれば省エネになるのか良く分かりました。現在運転士の人でも何が省エネ運転なのか理解できていないと思うので、全員に周知していきたい。
- (2) 省エネ運転をしても走行時間に違いがないことが理解でき、アクセルオフによりブレーキの上に足を置くことができるメリットがあり安全運転にも繋がるのが分かった。また実際のギア操作の仕方は特に参考になった。
- (3) 空走距離についての体験実習は、自分が思っていたより興味深いものでした。目で見て、脳で認識し、行動に移すまでに、これほどまでに時間がかかるのかと、改めて感じ、車間距離の重要性を実感した。また、自分の加齢による衰えも改めて実感した。
- (4) 実際のドラレコの映像は、心理的に受けるインパクトもあり、残像として頭にインプットされ、非常に参考になった。
- (5) 改めて「KYT」のやり方が再確認できてよかった。「KYT」の活用により事故

も未然に防ぐ方法を今後を活かしていこうと思いました。

(6) 毎日運転していると思ひこみも多くなっていくので、先入観、偏見、思い込みにならないように、ヒューマンエラーを起こさないように、これからの乗務に役立てたいと思います。

(7) 人はヒューマンエラーを起こすということを前提に、いかに危険予知が大切かが良く分かった。繰り返し危険予知トレーニングをすることで事故を未然に防げるということをお教えいただき、とても良かった。

【省エネ運転の実技及び解説】



インストラクターから省エネ運転の実技指導を受けている様子(写真左)

インストラクターから省エネ運転の解説を受けている様子(写真右)



インストラクターから運転中の「認知・判断・操作のメカニズム」についての説明を受けている様子(写真左)

【講演】

「事業用自動車の運行の安全を確保するために」～ドライブレコーダー映像の事故事例を通じ生理的・心理的要因から安全を考える～

（講師 しずてつジャストライン（株）
安全運行統括部 運行支援課
八木 敏晴 氏）



【講演】

「ドライブレコーダーを活用した危険予知トレーニング（KYT）と運転において【みる】とは？」

（講師 独立行政法人 自動車事故対策機構
滋賀支所チーフ 佐藤 当 氏）



【省エネルギー運転研修の参加者】

